

逸見重雄教授略歴および著作目録

雑誌名	社会労働研究
巻	16
号	3-4
ページ	163-167
発行年	1970-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10114/00017885

が、戦災のため紙型が焼かれ、未発表におわった。このゲラ刷一部をタイプ印刷して学位論文とした。

△その他、団体名前出、太平洋協会編『仏領印度支那政治・経済』及び日本印度支那協会編『仏領印度支那の概観』の単独執筆書の外、他の研究者と共同執筆の著書には、『大南洋年鑑』（南洋団体連合会編）、『南方共栄圏の全貌』（旺文社）、『南方年鑑』（南方年鑑刊行会編）、『南方共栄圏の労働問題』（協調会編）等がある。これらの年鑑に主としてインドシナの政治・経済・社会・労働等の諸問題を執筆した。

▲雑誌掲載論文・記事▼

——インドシナ関係——

△仏領印度支那の概観（太平洋協会機関誌、「太平洋」第三卷、第二号）

△イヴ・アンリー著「印度支那の農業経済」（農業経済学会「農業経済研究」、岩波書店）

△仏領印度支那の人口及び食糧問題（協調会「社会政策時報」、第三二五号）

△仏領印度支那の国際的地位（国民思想研究所「国民思想」、第六卷、第十号）

△仏領印度支那における民族（満鉄東亜経済調査局「新亜細亜」、第二卷、第十一号）

△仏領印度支那における華僑上・下（南洋協会「南洋」、第廿

五卷、第七号及び第十号）

△仏領印度支那の農業問題（前出「新亜細亜」、第三卷、第一号）

△印度支那米について（地理教育研究会「地理教育」、昭和十六年一月）

△仏領印度支那の護謨業（「太平洋」、第四卷、第五号）

△印度支那における林産資源（「太平洋」、第三卷、第九号）

△印度支那における水産業（「太平洋」、第三卷、第十号）

△印度支那における鉱業と鉱産資源上・下（「太平洋」、第三卷、第七号、第八号）

△仏領印度支那の炭鉱業（「新亜細亜」、第三卷、第四号）

△仏領印度支那の工業（「南洋」、第廿七卷、第四号）

△仏領印度支那貿易の進路（東京市役所「東京の貿易」、第四卷、第四号）

△日本と仏印との経済提携の必然性（改造社「大陸」、第三卷、第十一号）

△仏領印度支那工業化論—G・ケエリアン教授の新経済政策論の紹介—（「太平洋」、第四卷、第二号）

△フランスの安南攻略小史（「太平洋ニュース」—「太平洋」第三卷、第八号附録）

△印度支那の民族とフランスの植民政策（東洋経済新報社「東洋経済」、第一九三〇号）

△仏領印度支那における泰族（「太平洋ニュース」—「太平洋」

第四卷、第四号附録)

△泰・仏印国境の紛争 (『帝大新聞』、第八四一号)

△印度支那バストウル研究所に就て (『太平洋』、第三卷、第十二号)

△印度支那の北と南、上・下 (『太平洋』、第四卷、第十二号、第五卷、第二号)

△印度支那における土地制度 (南洋経済研究所「南洋経済研究」、第六卷、第四号)

△印度支那における農民の生活水準 (『新亜細亜』、第五卷、第七号)

△印度支那における手工業者(一)、(二) (『南洋』、第二十九卷、第九・第十号)

労働問題

「この時代に村山重忠氏を介して財団法人協調会に出入し、同協会定期刊行物『労働年鑑』海外篇「フランスの労働事情」昭和十四年、十五年」を執筆した。」

△最近におけるフランスの労働市場(変名、沖津順三)(協調会機関誌「社会政策時報」昭和十四年、第二二〇号)

△最近におけるフランスの労働争議(同右)——同「社会政策時報」第二二三号)

△仏領印度支那の労働問題(協調会編「南方共栄圏の労働問題」、昭和十七年単行本所収)

中央労働学園時代(自昭和二十二年至二十六年)

「中央労働学園は財団法人協調会の戦後改名した組織であつて、桂梶氏が理事長であつた。この時代に「社会政策時報」は「労働問題研究」と改題され、『労働年鑑』は引きつづき刊行されたが、毎回同年鑑の労働争議の項を執筆した。同学園が経営した専門学校は二十四年に新制大学中央労働学園大学に昇格した。初代の学長は永井亨氏であつた。」

著書・翻訳書

△エンゲルス著『空想より科学へ』(昭和二十五年、酣燈社)

△国際労働組合運動史、インタナショナルの歴史、労働争議(末弘巖太郎、藤林敬三、大河内一男監修『社会労働問題辞典』、昭和二十四年、実業之日本社刊)

△炭鉱労働運動の現段階(中央労働学園調査所、季報第二冊『産業国管と労働者階級』中央労働学園版、昭和二十四年)

雑誌掲載論文・記事

△国際労働組合運動史論上・中・下(中央労働学園機関誌「労働問題研究」昭和二十三年、第十七号、第十八号、第十九号連載)

△インドシナ民族運動史(一)、(二)、(三)(民科「歴史評論」昭和二十五年5・6・7月号連載)

△フランス労働運動史の一齣(『労働問題研究』昭和二十五

年九・十月、第四十六号合併)

△イギリス労働運動史の一齣(「労働問題研究」昭和二十六年一・二月合併、第四十八号)

法政大学社会学部時代(自二十六年至現在)

〔中央労働学園大学は昭和二十六年八月法政大学と合併して法政大学社会学部となった。この学部の合併当時の学部長村山重忠教授に代って教授会選出で学部長に就任した私の部長時代に、「社会学部学会」を創設し、学会機関誌「社会労働研究」を創刊した。労働学園大学の別科は、小さな学校法人中央労働学園の経営として残され、近江谷駒(小牧近江)氏が初代の理事長兼学院長となり中央労働学院と改称された。〕

▲著書(単行本)・講座の一部分担書・翻訳書・編著書▼

△初期の社会主義Ⅱ労働運動(「日本歴史講座」第六卷、昭和二十七年二月初版、河出書房叢書所収)

△インタナショナルの歴史(労働問題研究会編「政治・経済基礎講座」第一卷、昭和二十九年六月初版、岩崎書店叢書所収)

△帝国主義の理論(「政治・経済基礎講座」第二卷、昭和二十九年八月初版、岩崎書店叢書所収)

△アジア経済発展と労働組合(日本エカフェ協会編「アジア経済発展の基礎理論」昭和三十四年六月、中央公論社版単

逸見重雄教授略歴・著作目録

行本所収)

△ベトナム労働党斗争30年史Ⅰ(編著「ベトナム労働党中央委員会宣伝部党史研究会」、翻訳「日本ベトナム友好協会ベトナム労働党史研究会」、校閲「日本共産党中央委員会宣伝教育部」、日本共産党中央委員会出版部発行、昭和三十六年九月二十日初版)

△鶴沼時代の野呂さん(野呂栄太郎没後三十周年を記念して神奈川県旧友会藤沢支部発行、昭和三十九年)

△帝国主義と民族民主革命―ベトナム問題を中心として―(法政大学出版局発行、昭和四十年十一月第一刷)

△戦うベトナム(自費出版、昭和四十三年六月三十日発行)

△道標(「逸見先生を囲む会」発行、昭和四十四年三月三十日)

▲雑誌掲載論文・記事▼

△インドシナにおける公田制度(社会学会機関誌「社会学評論」、昭和二十七年、九月号)

△東南アジアの労働運動(「社会労働研究」、昭和二十九年六月、創刊号)

△ホー・チ・ミン評伝(「社会労働研究」、昭和二十九年十一月、第二号)

△フィリピン農村社会の構造(「アジア問題」、昭和三十年五月号)

- △インド独占資本の形成と特質(「未定稿」(「社会労働研究」、昭和三十一年三月、第五号)
- △南北に分断されたインドシナ経済(「アジア協会機関誌」「アジア問題」、昭和三十一年十一月号)
- △ヴィエトナム民主共和国の経済的發展(「日本ヴェトナム友好協会研究誌」「ヴェトナム」、昭和三十一年七月、第六号)
- △東南アジア経済開発と労働事情(「アジア問題」、昭和三十一年七月号)
- △フランスのアジア研究(「アジア政経学会機関誌」「アジア研究」、昭和三十三年四月号)
- △中国人民革命の国際的意義(「社会労働研究」、昭和三十三年十二月、第十卷記念号)
- △現代資本主義における国家の経済的役割(「社会労働研究」、昭和三十四年十二月、第十一号)
- △後進国における資本主義の発達について(「社会労働研究」、昭和三十五年、村山重忠教授還暦記念号)
- △アジアの変化とベトナム民主共和国(「アカハタ」、昭和三十五年九月一日号)
- △ベトナム労働党史(「労働運動史研究」、二八号、昭和三十六年十一月)
- △社会主義への過渡期のベトナム経済(「社会労働研究」、第一四号(上)、昭和三十六年)
- △植民地主義から社会主義へーベトナムの経験ー(「アジア・アフリカ研究」、昭和三十七年十月及び十一月号)
- △アジア・アフリカ研究におけるマルクス主義的課題(「社会労働研究」、第十五号、昭和三十八年)
- △ベトナム民主共和国と農業(「アジア農業交流懇話会」「アジア農業」、第五号、昭和三十八年)
- △南ベトナム解放民族戦線(「社会労働研究」、第十一卷、第二号、昭和三十九年十一月)
- △北ベトナムの革命と社会主義建設の特徴(「中国研究所」「アジア経済旬報」、六〇四号)
- △ベトナム人民の抵抗戦争(「社会労働研究」、第十二卷、第一号、昭和四十年十一月)
- △ベトナム民主共和国の社会主義建設(「自著『帝国主義と民族民主革命』昭和四十年十一月発行、第六章所収)
- △私のベトナム研究(逸見ゼミナール「会報」、11号、昭和四十三年)
- △植民地主義から社会主義へ(逸見ゼミナール「会報」、12号、昭和四十四年)
- △フランスの社会労働運動を探る(「東京河上会」「会報」、第二十二号、昭和四十四年)
- △社会的ヒューマニズムについて(逸見ゼミナール「会報」、13最終号、昭和四十五年三月発行予定)

▲随筆・書評▼

- △野呂栄太郎君の追憶上・下（『東京大学新聞』、昭和二十一年四月一日及び一日、五十六号及び五十七号）
 - △わが青春の書（雑誌「法政」、昭和二十七年、第二号）
 - △野呂栄太郎君と「日本資本主義講座」、（『日本資本主義講座』、昭和二十九年三月、月報6）
 - △服部之総教授を憶う（『社会労働研究』、昭和三十一年十二月、第六号）
 - △東南アジアの中の日本（『法政』、昭和三十六年、第十卷、第五号）
 - △社会学部学会創立十一年（『法政大学社会学部学会報』、第五号、昭和三十八年）
 - △風樹のなげき（『法政』、一四〇号、昭和三十九年）
 - △学生運動と河上先生（河上肇著作集「月報」8、昭和四十一年）
 - △頼光舎縁起（逸見先生を囲む会「会報」、昭和四十二年）
 - △私と学生（逸見先生を囲む会「会報」、昭和四十二年）
 - △石田英一郎君の追憶（東京河上会「会報」19号、昭和四十三年）
 - △大内先生のご揮毫（『道標』所収、昭和四十四年三月）
 - △パリ通信及びパリ通信以後（逸見先生を囲む会「会報」、第三第四及び第五号、昭和四十四年）
- × × ×
- △フオスター著『国際社会主義運動史』（『法政大学新聞』、昭和三十三年二月二十五日号）
 - △岡倉古志郎著『民族』（新潟日報・北海道新聞その他、昭和三十三年五月）
 - △松尾洋・大河内一男編『日本労働組合物語』（昭和編）（『りいぶる』、第七号、昭和四十年十二月）
 - △末川博編『河上肇研究』（『朝日ジャーナル』、第一・七卷、四一号、昭和四十年）
 - △大内兵衛著『河上肇』（『法政』、一七二号、昭和四十一年）
 - △河上秀著『留守日記』（『図書新聞』、昭和四十二年二月二十五日号）
 - △野呂栄太郎全集（下）（『エコノミスト』、昭和四十二年七月四日号）
 - △『経済』『唯物史観』『思想』―資本論百年特集―（『エコノミスト』、昭和四十二年七月十八日号）
 - △真保潤一郎著『ベトナム現代史』（『りいぶる』16号、昭和四十三年）
 - △芝田進午著『ベトナムと思想の問題』（『法政』、一九九号、昭和四十三年）